

2019年7月19日の薬事委員会で以下の薬剤について決定いたしました。他の事柄についてもあわせてご報告いたします。

① 新規採用医薬品

フェントステープ 0.5mg (消化器内科)

薬効： 経皮吸収型 持続性疼痛治療剤

申請理由： 高齢者へのフェンタニル貼付剤初回投与に使用。1 mg→0.5mgへ増量時に0.5mg製剤を使用することで副作用の軽減を図ることができる。

採用中止薬剤： フェントステープ (使用量が少ない規格) 【院外限定】

ビソノテープ 2mg (循環器内科)

薬効： 経皮吸収型・β1遮断剤

申請理由： 心房細動の患者が多く、ビソノテープ 4mg を使用している。しかし高齢者は4mgでは量が多い場合がある。そこで2mg製剤を使用したい。

採用中止薬剤： プロノン錠 150mg 【院外限定】へ

レルベア 100 エリプタ 30 吸入用 (循環器内科)

薬効： 喘息・COPD 治療配合剤

申請理由： 当院の入院患者で吸入薬を使用している。本剤は1日1回の吸入薬でありアドヒアランスの向上が期待できる。

採用中止薬剤： アストフィリン錠 【院外限定】へ

セファレキシシン錠 250 「日医工」 (総合診療センター)

薬効： セファロsporin系抗生物質製剤

申請理由： セファゾリンとスペクトラムがほぼ一致しており、内服薬としてのDe-escalationの選択薬にしやすい。

採用中止薬剤： セファクロル

ビブラマイシン錠 100mg (総合診療センター) 【院外限定】

薬効： テトラサイクリン系抗生物質

申請理由： 梅毒、非定形肺炎、クラミジア・トラコマティスの疾患の代替薬として使用することが望ましいため

採用中止薬剤： なし

テリルジー100 エリプタ 30 吸入用 (総合診療センター) 【院外限定】

薬効： 成分配合 COPD 治療剤

申請理由： COPD に対して3種類の薬の合剤の吸入薬。今まで2から3種類の吸入を使用していた患者に使用することでコンプライアンスの向上が期待できる。

採用中止薬剤： なし

アーリーダ錠 60mg (泌尿器科)【院外限定】

薬効： 前立腺癌治療剤

申請理由： イクスタンジと同様の薬剤。副作用として全身倦怠感が強くなり使用しやすくなっている。

採用中止薬剤： なし

ボルタレン SRカプセル37.5mg (整形外科)【院外限定】

薬効： 徐放性鎮痛・抗炎症剤

申請理由： 非ステロイド抗炎症薬 (NSAID)」、アリアル酢酸系に分類で効果が強く持続性の薬剤

採用中止薬剤： なし

マイオピン点眼 0.01% (眼科)

薬効： 低濃度アトロピン製剤

申請理由： オルソケラトロジー治療に際して、0.01%低濃度アトロピンを併用することにより、眼軸長の伸長を抑制する効果があると報告されている。

採用中止薬剤： なし

Grafton Putty 2.5 (整形外科)

薬効： 医療用器材

申請理由： 胸腰椎固定術における骨移植に関して、自家局所骨が十分でなかった際の代替人工骨として現在利用できる器材の中で最も効果が高く安全性に対する検証も十分なされている。

採用中止薬剤： なし

② 使用成績調査

<ロミプレート注>

1. 調査区分：特定使用成績調査

2. 医薬品名：ロミプレート皮下注 250 μ g 調整用

3. 調査目的：既存治療で効果不十分な再生不良性貧血患者を対象にロミプレート皮下注 250 μ g 調整用の使用実態下での「出血」、「血栓塞栓症」、「骨髓線維化」、「造血器腫瘍」の発現状況について検討することを主な目的とします。

4. 調査予定期間：

調査期間 2019年7月～2024年6月末 (5年間)

登録期間 2019年7月～2021年6月末 (2年間) ただし調査予定症例数 (200例) の収集が見込まれた場合には登録期間終了時期を早める場合がございます。

観察期間 投与開始から 52週間 (1年) ただし 52週以内に投与を中止した症例は本剤投与中止後 4週までとします。追跡可能な症例では本剤投与開始後最長 2年まで調査致します。

5. 予定症例数：全例調査

6. 調査責任医師：麥谷 安津子先生

調査分担医師：井根 省二先生、市原 弘善先生、橋村 光晴先生、仲子 聡一郎先生